

2024 年度 台湾研修 報告書

医療科学部 放射線技術学科 2 回生 長岡 晃司

台湾研修概要

日程:8/25～8/31

訪問先:元培医事科技大学、新竹國泰医院、BigCity、台北台安医院、夜市、九份、臺北 101

研修内容:中国語講座、台湾の学生との文化交流、病院見学、ポスター作りなど

本研修に参加した目的と目標

参加した目的は、日本と海外の病院の違いを知りたかったという点と、台湾と日本の文化の違いを知りたかったという点の2つです。この研修では、積極的にコミュニケーションをとり、いろいろな知識を吸収しようと考えていました。

学内研修で学んだこと

学内研修では、コミュニケーションの難しさを体感しました。極力英語で伝えようとしても、自分の発音が悪く、相手に単語が伝わらないことが多々ありました。しかし、台湾の学生が日本語をかなり理解してくれていたため、英語で伝えようとしたことを日本語で聞き返してくれ、とてもコミュニケーションがとりやすかったです。中国語講座では、発音の練習と簡単な挨拶を教わりました。発音の練習では、‘ボポモフォ’とよばれる発音記号を用いて教わり、日本で習ったアルファベットでの発音と異なり、慣れるまでに時間がかかりました。この講座を通して、同じ言語、近い言語でも様々な教え方があることを知りました。

学外研修で学んだこと

学外では、病院見学に行きました。病院見学では、受付や身長・体重などの検査をカードで管理していて、検査結果などを病院のスタッフが記録している日本とは少し違い、患者さんがすることの違いを学びました。また、救急センターの処置室に入る時は鍵が必要な扉があり、日本では入れる人を制限するという点で設置しているが、台湾では、喧嘩で運ばれてきた時、その相手が入ってくることを防ぐためでもあると聞き、安全対策として設置していることを知りました。

観光&交流

観光では、九份と夜市が印象に残っています。九份は千と千尋の世界のような雰囲気が至る所にあり、日本との違いを1番感じました。また、夜市では、日本の料理とは違う味付けにとっても驚きました。加えて、日本のお祭りの出店などの雰囲気とも違い、とても刺激的でした。このどちらも台湾の学生が案内をしてくださり、より親交を深めることができました。

まとめ

中国語講座の業間休み、台湾の学生とコミュニケーションをとっていく中で、盛り上がる話題などがあまり変わらないことがわかり、同世代が持つ興味、関心は、世界共通であることを知りました。病院の違いについては、新竹國泰医院に行った際、日本にもあるような扉でも日本と台湾で設置している理由が少し違うことを知り、その違いが扉の材質にも反映されていて驚きました。

この台湾研修全体を通じて、日本と台湾の文化の違いや 医療、病院の違いなどを知ることができました。

謝辞

1 週間の台湾研修という、個人旅行では得られない貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。京都医療科学大学の先生方をはじめ、ご多忙の中研修を受け入れてくださった、元培医事科技大学、新竹国泰醫院、臺北台安醫院の皆様にご心より感謝申し上げます。また、研修中に細やかなサポートをくださったボランティアの皆様のおかげで、非常に実り多い滞在となりました。改めて、このような素晴らしい研修をご準備いただき、誠にありがとうございました。



【夜市の様子】



【九份 「千と千尋の神隠し」の舞台】



【中国語講座を受けている様子】



【國泰醫院で説明を受ける様子】